

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		市内巡回バス運行事業						予算事業名		市内巡回バス運行事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				03	01	04	6001	経常経費					
総合計画体系		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						事業の区分		主要事業			
		2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)								重点事業			
		②公共交通ネットワークの強化						担当課係等		長寿福祉課			
3交通弱者等の交通手段の確保						長寿支援係							
事業期間		継続(平成16年度～平成33年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
公共交通として安定した運行を図る。							市内を運行していた民間路線バスが廃止され、その公共交通空白地域の補完のため、平成16年5月、市政50周年事業の一つとして試行開始された。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
交通弱者である高齢者等の日常的な公共交通手段として、市内病院や公共施設等を結ぶ8路線を設定し、休日等を除き、市内巡回バスを運行する。							市内を移動する方						
							【事業をとりまく環境の変化】						
							試行であることと、当初想定される主な利用者が高齢者ということで、高齢福祉担当で事業を実施してきた。しかしながら、利用者の多様化が進み、路線及び運行ダイヤにおいて充実してきており、市の公共交通の一つとなっている。						
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】					
公共交通として安定した運行を図るため、包括的外部委託等を検討する。				新庁舎移転に合わせて、公共交通部署において、運行ダイヤ及び路線の見直し等を行う。				公共交通として安定した運行を図る。老朽化した車輛を廃車し更新する。					
■事業費													
				H29年度		H30年度							
財源内訳	国庫支出金			0		0							
	県支出金			0		0							
	地方債			0		0							
	その他			0		0							
	一般財源			16,381		13,078							
歳入計(千円)				16,381		13,078							
歳出内訳	節(番号+名称)				金額(千円)		金額(千円)						
	11	需用費			2,793		2,880						
	12	役務費			246		214						
	13	委託料			9,380		9,876						
	14	使用料及び賃借料			23		83						
	18	備品購入費			3,840		0						
	19	負担金補助及び交付金			10		0						
	27	公課費			89		25						
	歳出計(千円)(A)				16,381		13,078						
伸び率(%)						-20.16							
備考	総合計画79ページ 予算書76～77ページ												

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	巡回バス運行回数	回	目標	8,981.00	8,981.00	8,981.00
	年間の巡回バス運行回数（臨時便は含まず）		実績	8,923.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	巡回バス利用者数（延べ人数）	人	目標	25,000.00	26,000.00	27,000.00
	年間の巡回バス利用者者延べ人数		実績	25,874.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	公共交通機関によるアクセスの確保、高齢者等の地域内移動の支援として必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	運行計画等に市が計画する施策と連携を図る必要があるため、市が実施主体になることは妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	幅広く高齢者等の地域内移動の支援ができることから妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	乗務員をシルバー人材センターから派遣を受け、車両整備管理等を直営で行うことは、安全管理の面で見直す必要がある。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	無料で利用条件もないことから受益者の偏りは見られない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	地域からのバス停留所増設の要望はあるものの、停留所の増設は病院等主要の目的地への所要時間の増大も生むことになるため、苦慮するところである。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	乗務員をシルバー人材センターから派遣を受け、車両整備管理等を直営で行うことは、人員確保の困難さや、安全管理の面で見直す必要がある。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
本事業自体は公共交通機関によるアクセスの確保、高齢者等の地域内移動の支援として重要な事業ではあるものの、物流業界の中でもドライバー不足が問題となっている中、乗務員確保が大変厳しい状況である。また、交通機関として定着してきたことにより、高齢者以外のサラリーマン、学生、市外の方など多様などが利用しており、高齢者の交通手段にとどまらず、より便利な公共交通としての役割も求められている。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
シルバー人材センターからの運転手派遣委託という形態で事業継続していくことは、利便性、効率性、安全性についても疑問がある。この状況を改善するために、旅客自動車運送事業者にも車両を貸与し、運転業務及び車両整備業務等を包括的に委託することを検討していく。 また、交通機関として定着してきていることから、本市における公共交通としての在り方や位置づけを定める必要がある。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 現状の運行を継続することは、運転手の人材確保困難や安全管理面の問題等により市民の安全性を担保することが困難である。早急に、旅客自動車運送事業者にも運転業務及び車両整備業務等を包括的に委託する必要がある。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 関係各課及び関係機関との調整により進める。	